

令和6年度第1回札幌市食育推進会議

議 事 録

日 時：2024年8月27日（火）午前9時30分開会
場 所：TKPカンファレンスセンター北3条 ルーム7E

1. 開 会

○事務局（秋野歯科保健担当部長） 皆様、おはようございます。

定刻より若干早いですが、委員の皆様がおそろいでございますので、ただいまから令和6年度第1回札幌市食育推進会議を開催いたします。

会長による議事に入るまでの間、進行を務めます歯科保健担当部長の秋野と申します。よろしくお願いいたします。

最初に、食育推進会議の事務局について、これまで札幌市保健所健康企画課が担当しておりましたが、今年度より、機構改革によりまして、ウェルネス推進部を新設いたしまして、本会議の所管も保健所からウェルネス推進部へ移っておりますので、ご承知おきをいただければと思います。

本日の委員の出席状況でございますが、お手元の委員名簿でございますとおり、委員21名のうち、ご出席をいただいている委員が14名でございます。

札幌市食育推進会議条例第7条第2項の規定により、委員の過半数の出席がございますので、当会議は成立していることをご報告いたします。

それでは、お手元の会議次第に沿って進行させていただきます。

会議の終了は11時半でご案内いたしておりますけれども、11時過ぎを目途としたいと考えてございますので、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

また、本会議につきましては、札幌市情報公開条例の規定によりまして、市民へ公開することを原則といたしますので、会議録を札幌市のホームページ上で公表したいと考えてございます。つきましては、会議内容を録音させていただきますので、ご了承のほどをよろしくお願いいたします。

また、本日、報道機関1社が取材に入っております。会議の様子を撮影したいとのことですが、全体の様子を映すことをお願いをしておりますので、ご了承願います。

それでは、お手元の資料等の確認をさせていただきます。

本日の資料といたしましては、事前に送付をさせていただいております会議次第、委員名簿、食育推進会議条例、附属機関等の設置及び運営に関する要綱、資料1から資料11まででございます。

そのほか、本日配付させていただいております座席表、札幌市第4次食育推進計画概要版です。

また、委員の皆様には誌上料理教室の冊子も配付をさせていただいております。

不足している資料等がございましたらお申しつけください。

2. 挨拶

○事務局（秋野歯科保健担当部長） それでは、開会に当たりまして札幌市保健福祉局ウェルネス推進担当局長の影山からご挨拶を申し上げます。

○影山ウェルネス推進担当局長 皆様、おはようございます。札幌市保健福祉局ウェルネ

ス推進担当局長の影山でございます。

会議の開会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、大変お忙しい中、そして、雨の降る中ではございますが、令和6年度第1回札幌市食育推進会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、皆様におかれましては、日頃から、札幌市の保健福祉行政、とりわけ食育の推進には多大なるご尽力をいただいておりますことにこの場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

さて、札幌市では、人生100年時代を迎える中、今後10年間のまちづくりの基本的な指針となります第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンを令和4年度に策定いたしました。この計画では、ウェルネス、これは健康と訳してはいますが、これをまちづくりの重要概念の一つと定めておりまして、この4月には、先ほどお話がありましたが、ウェルネス推進部を新たに立ち上げ、市民の健康寿命の延伸に取り組んでおります。その中で、今回のこの会議の所管につきましても保健所からウェルネス推進部へ移管いたしました。

ウェルネス推進部では、食育をはじめ、運動、歯科保健、がん・たばこ対策など、これまで以上に関係機関の皆様と連携を深めながら、市民一人一人の健康づくりを推進してまいりたいと考えております。今後ともご協力をいただきますよう、お願いを申し上げます。

また、皆様にご審議をいただきました第4次札幌市食育推進計画ですが、こちらは昨年の12月に公表することができました。

基本理念は、食を通して豊かな人間性を育みますとしております。食を通して人と人とのコミュニケーションを高め、健康的な食生活を実践する社会を目指してまいります。

私ども行政といたしましては、この基本理念を実現させるための活動を計画的に進めてまいりたいと考えておりますが、それには、皆様方が所属されておられます食育関連団体、関係機関の皆様のご支援が不可欠であると考えております。

重ねてのお願いで恐縮ですが、どうか、今後ともご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方それぞれのお立場から食育を推進していただきますようお願い申し上げます。

本日の会議は、限られた時間ではございますが、忌憚のないご意見をいただきまして、私どもの今後の取組につなげてまいりたいと考えております。どうか今後とも札幌市の食育の推進に向けてご尽力を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶に代えさせていただきます。

それでは、本日はどうぞよろしくお願いたします。

3. 出席委員紹介

○事務局（秋野歯科保健担当部長） それでは、本日ご出席の委員の皆様をご紹介します。お手元の委員名簿に従ってお名前をお呼びいたしますので、恐れ入りますが、その場にてご起立くださいますようお願いいたします。

まず初めに、本会議の会長をご紹介します。

藤女子大学人間生活学部食物栄養学科教授の菊地和美委員でございます。

続きまして、今年度から、札幌市PTA協議会の役員改選に伴い、新たに委員にご就任をいただきました札幌市PTA協議会副会長の朝野由紀委員でございます。

続きまして、札幌市環境アドバイザーの石塚祐江委員でございます。

続きまして、一般社団法人札幌市私立幼稚園連合会副会長の太田真理委員でございます。

続きまして、一般社団法人札幌市医師会の岡村暁子委員でございます。

続きまして、本会議の職務代理者でいらっしゃいます北海道技術・家庭科教育研究会で市立中島中学校校長の小川厚志委員でございます。

続きまして、一般社団法人札幌市中央卸売市場協会代表専務理事の片貝太委員でございます。

続きまして、札幌市農業振興協議会会長の軽部幹夫委員でございます。

続きまして、市民委員の河原光子委員でございます。

続きまして、札幌市小学校校長会、市立盤溪小学校校長の高屋敷よし子委員でございます。

続きまして、一般社団法人札幌歯科医師会理事の當山悟委員でございます。

続きまして、公益社団法人札幌消費者協会理事の永嶋猛委員でございます。

続きまして、一般社団法人札幌市私立保育連盟副会長の水岡路代委員でございます。

続きまして、札幌市立高等学校・特別支援学校校長会、市立札幌北翔支援学校校長の山田浩富委員でございます。

以上、14名の委員にご出席をいただいております。

続きまして、本日、都合によりご欠席されている委員についてご報告いたします。

札幌市食生活改善推進員協議会会長の飯岡万里子委員、札幌市調理師団体連合会専務理事の大江廣嗣委員、公益社団法人全国調理師養成施設協会北海道地区協議会代表幹事の佐々木淑子委員、日本チェーンストア協会北海道支部事務局長の玉生澄絵委員、一般社団法人札幌市食品衛生協会副会長の中岡智委員、公益社団法人北海道栄養士会会長の中川幸恵委員、市民委員の松本直子委員、以上7名の委員が欠席でございます。

また、本日は、事務局として、ウェルネス推進部ウェルネス推進課食育・健康管理担当課長の中澤、ウェルネス推進課の職員、関係部局の職員が同席をさせていただいておりますので、よろしくお願い申し上げます。

なお、誠に恐縮ではございますが、影山局長は、この後にほかの公務がございまして、ここで退席をさせていただきます。

それでは、これより議事に移ります。

菊地会長に会議の進行をお願いしたく存じますので、よろしくお願い申し上げます。

4. 議 事

○菊地会長 本日は、皆様方からたくさんのご意見をいただきたいと思っておりますので、会議にご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、会議次第に従って議事を進めさせていただきます。議題（１）のうち、令和５年度食育事業の報告についてです。事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（中澤食育・健康管理担当課長） それでは、令和５年度食育事業についてご報告をいたします。事前にお送りさせていただきました資料１の令和５年度食育事業報告の一覧、そして、その後ろにございます資料２の令和５年度食育事業報告についてご説明いたします。初めに、資料１をご覧ください。

資料１につきましては、食育関係課が令和５年度にどのような取組を行ったかをまとめたものでございます。現在、第４次札幌市食育推進計画が始まっていますが、前の計画である第３次計画の指標に基づいて報告いたしますことをご了承願います。

１ページから３ページまでは主に食生活に関することで、朝食や野菜摂取などについて、関係課、関係機関・団体等と連携し、啓発資料や配布、ホームページの動画による啓発を行いました。また、区では、主に乳幼児健診の栄養相談、保育所や学校では給食を通じた食指導、楽しく、おいしく食べる取組を行いました。そして、高校や大学、そして、成人、高齢者などに対しては食育講座等を実施し、食に関する啓発、食育推進を行ったところです。おめくりいただきまして、４ページと５ページは、環境に配慮した食生活や食の安全・安心、農業の体験に関することで、地産地消、食品ロス削減、地場産物の活用を推進し、環境に配慮した取組を行いました。

６ページから８ページは、主に食文化の継承、食育推進体制や環境整備に関することで、関係機関との連携や食育ボランティアの育成支援、関係機関等との取組を行いました。

続きまして、資料２をご覧ください。こちらは、資料１をまとめたものです。

令和５年度は全部で１４３項目の食育事業に取り組みました。結果としては、目標を達成している二重丸（◎）が１２０項目、目標値には達していないが、目標値に向かっている（○）が１３項目、変化なし、または、目標値を下回っている、遠ざかっている三角（△）が６項目、実施年ではないなどの理由により評価ができなかったことを示している棒線（―）が４項目でした。

令和５年度は全般的に新型コロナウイルス感染症の影響により、一部縮小して実施していた取組が再開されております。その結果、令和４年度に比べ、三角や横棒のものが減り、二重丸が増えまして、事業全体の二重丸の達成率は８３．９％となっております。

今後は、第４次計画の取組に基づき、進めてまいります。

○菊地会長 令和５年度の各食育関係課の取組につきましては、活動指標を達成できた二重丸が１２０項目、残念ながら、変化なし、遠ざかっている取組は６項目でした。

令和５年度の取組について委員の皆様から何かご質問やご意見などはございませんでしょうか。お考えいただいている間に私から質問をいたします。

８ページの食文化の継承と食育推進体制の整備のところで、三角がついている食生活改

善推進員協議会が進める食育事業についてです。もちろん、新型コロナウイルス感染症のことがあったからであり、今後は回復されていくかと思うのですが、ぜひ食育事業のところは丸になってほしいなと思っています。今後のお考えがあったら教えていただきたいと思います。

○事務局（中澤食育・健康管理担当課長） 本日、札幌市食生活改善推進員協議会の会長がご欠席されておりますので、ウェルネス推進部が支援を行っておりますので、今後についてと令和5年度についてご報告をさせていただきます。

初めに令和5年度についてです。コロナが5月に5類に移行したのですが、移行したと行ってすぐに再開したわけではなく、徐々に再開されていきました。結果としては活動回数291回ですが、感覚的には秋以降に事業が再開してきたと考えております。

なお、令和6年度は4月当初から活動していると感じております。

○菊地会長 では、令和6年度の結果を期待したいと思いますし、三角がきっと丸になるように思いました。それでは、委員の皆様から何かご質問等はありませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○菊地会長 欠席された委員からご意見をいただいているとのことですので、事務局からお願いいたします。

○事務局（佐々木食育・健康管理担当係長） 市民委員の松本直子委員からご意見をいただいておりますので、代読させていただきます。

今回、欠席で申し訳ありません。数点、意見を記載いたします。

たくさんのお取組、すばらしいと思います。二重丸項目が増え、市民の皆様への周知はほぼできているのかなと感じます。それを踏まえて、1、朝食を食べる小・中学生の2019年からの摂取のパーセンテージは伸びていますか。2、同じく野菜摂取のパーセンテージは、2019年からの摂取率は伸びていますか。3、もし野菜がとれない、朝食がとれないというパーセンテージがそこまで伸びていないなら、何が根本的な原因になっていますか。

もう一点、項目29の食育の投稿ですが、どなたが担当していらっしゃいますか。記事を作ることは、思ったよりも時間がかかります。スマホやパソコンをよく見る親・子世代へのアプローチには欠かせないと思いますので、外注（インスタグラマー等）をしながら定期的に投稿できるよう工夫したらどうだろうかとのことでした。

○菊地会長 ただいま、欠席された松本委員からの質問でありました。

今の質問では、朝食の摂取率は伸びているのかどうか、野菜の摂取率は伸びているのかどうか、もし伸びていないのであれば、その根本的な原因にどのようなことが考えられるのか、また、食育の投稿というのはどなたの担当なのかということでした。

事務局からご回答をよろしくお願いたします。

○事務局（中澤食育・健康管理担当課長） ご質問についてご回答を申し上げます。

初めに、小・中学生の2019年からの朝食欠食率の推移についてです。

文部科学省で実施しています全国学力・学習状況調査でアンケートを一緒に行っております。こちらは公式ホームページなどでも公表されておりました、朝食を欠食する札幌市の小学6年生は、2019年以降は横ばい、やや微増という傾向になっております。また、中学3年生の欠食率はやや増加傾向が見られておりますが、これは、札幌市のみならず、全国的な傾向となっておりますけれども、朝食欠食率については、全国に比べ、やや高い傾向があると認識しております。

次に、朝食を食べていない根本的な原因には何があるかについてです。

直接、小学生や中学生に聞いているものはございませんが、国が公表している食育白書というものがございます。こちらでは、朝食を食べていない理由について、主に3点が示されておりました、時間がない、食欲がない、睡眠不足ということでした。

皆様にご協力をいただきまして策定しました第4次札幌市食育推進計画におきましても、朝食の欠食と就寝時刻や起床時刻との関連性が見られるため、生活のリズムが関連すると考えております。小学生へのアンケートではないのですが、札幌市が15歳以上を対象に実施しました令和4年札幌市健康・栄養調査では、朝食を食べない理由として食欲が湧かないという回答が一番多く、次いで、時間がないということでした。

次に、野菜摂取量の状況についてです。

野菜摂取量に関し、朝は何を食べて、昼は何を食べてという食事記録調査を札幌市では5年に一度行っており、この調査で把握しております。直近では、令和4年度、その前は平成28年度に実施しておりますが、ほぼ横ばいとなっております、いずれも目標値には達していません。しかし、野菜不足は札幌市のみならず全国的な状況です。

次に、野菜を食べない根本的な原因についてです。

昨年度、野菜摂取について市民にアンケートを行いましたところ、野菜が不足していると思わないと回答した方が多いように見受けられました。また、野菜の価格が高い、調理が面倒、手間をかけられない、時間がかかるなど、野菜は調理が面倒という意見が多い傾向にありました。

なお、この結果を現在分析しており、今後の取組に生かしたいと考えております。

そして、野菜を食べない根本的な原因につながるのですが、野菜がどれくらいとれているかについて、昨年度の会議のときに推定野菜摂取測定器を用いたところ、こうした野菜摂取量の見える化ができる専用の機械を用い、各区のイベントやスーパー等でご自身の野菜摂取の状況を確認する機会を設けることとしております。

次に、食育の投稿についてです。

食育の投稿は職員が行っております。公式ホームページで情報提供をしているほか、現在、札幌市のSNSは、X（旧ツイッター）をはじめ、LINEでも行っております。ただ、お話にありました公式のインスタグラムは、現在、札幌市では行っておりません。

取組については、慎重に対応していきたいと考えておりますし、現在は、別な方法として企業等との連携を検討しているところです。

野菜摂取、朝食摂取の割合の上昇、市民への周知につきましては、後ほどご説明いたします部会において検討してまいりたいと考えております。

○菊地会長 ただいまのご回答等についてご意見等がありましたらお願いいたします。

○河原委員 1日に野菜を350グラムとろうというのは大分浸透しているように思いますが、パンフレットで見ると、測定器で測定していただいたほうが実感は湧くので、いいなと思います。イベント等で行われるとのことでしたが、年1回だと少ないように思います。そのイベントに行けばそういう機会がありますが、そうでなければなかなかできないので、そうした機会をもっと増やしていただけたらと思います。

そして、今回同封してくださったファイルですけれども、パンフレットよりも小さくなくていいなと個人的に思いました。

○事務局（中澤食育・健康管理担当課長） 野菜摂取量がわかる測定器は本日、区でのイベントが先に決まっていたもので、用意できませんでした。現在、大型スーパーでも測定器が常設されておりますので、そういったところでも測定できますし、ウェルネス推進部では大型スーパーやドラッグストアとの連携によるイベントを年に数回行っており、多くの機会を設けられるよう検討しておりますし、実際に実施を進めているところでございます。

ファイルについては後ほどご説明がありますが、8月は野菜摂取強化月間ということで、ファイルと併せて資料も作っていますので、常にお持ちいただき、活用していただけますと大変ありがたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

○菊地会長 今、このファイルのお話があったのですが、同じ内容のリーフレットを大学生に野菜月間のときに配ったら、この漫画がいいと言っておりました。ですから、このファイルももちろん、漫画になっているところも目を引くのかなと思った次第です。

また、先ほどの朝食欠食の原因についてです。

食欲が湧かないという理由が出ていたかと思うのですが、高屋敷委員、小学校での実際のお声をお聞きしたいなと思います。食欲が湧かないということについてはどのようにお考えでしょうか。

○高屋敷委員 学校での食指導というのは、年に何回か、保健の先生や学級担任と連携して行っております。

まず、欠食についてです。

本校は、朝食を食べている子どもが98%ぐらいで、すごくよく食べているという感じですが、食べない理由としては、朝起きるのが遅い、つまり、時間がないということがあります。どうして遅かったのかと聞いたら、昨日の寝る時間が遅かったということで、主に生活のリズムの乱れが非常に大きいのかなという実感があります。夜型になっている、ユーチューブを見続けている、そういったことが朝の時間のなさにつながっているように思います。

それから、起きて1時間もしないうちに学校に行かなければならないわけですが、そん

なときに食欲が出るわけがないという感じで、ほとんど食べないで出てくる子が何名かおられます。

家庭への啓蒙や情報の発信は学校でも行っていますけれども、お家の方、特に朝食をつくってくださる保護者の意識の変化を促していかなくてはいけないと思っておりました。

○菊地会長 現場の生の声を聞くことができました。

では、時間になりましたので、次の議題（２）の第４次札幌市食育推進計画に移ります。

令和６年度の計画についてのご説明をお願いいたします。

○事務局（佐藤栄養指導担当係長） 令和６年度の食育事業計画について、一部をご紹介します。

令和６年度の食育事業は、令和５年１２月に策定しました第４次札幌市食育推進計画に基づいて実施してまいります。

改めて第４次計画の策定趣旨を申し上げますが、第３次札幌市食育推進計画の成果や課題を整理し、介護などの支援を受けずに自立した日常生活を送ることができる期間である健康寿命の延伸のほか、持続可能な食生活の推進を目指してライフステージやライフスタイルに対応した切れ目のない生涯を通じた食育を札幌市全体で進めること、また、多様な関係機関と連携した食育の推進をすることです。

第４次札幌市食育推進計画で掲げている基本理念と基本目標についてです。

基本理念は食を通して豊かな人間性を育みますとし、食を通じたコミュニケーション、健康的な食環境、食品ロスの少ない社会、北海道の豊かな農水産物の利用や食文化を継承するなど、幅広い分野と関連いたします。

この計画では、市民が食に関する様々な知識を身につけ、適切な食品の摂取をするための判断力や技術を養うことで健全な体を培い、食に関する人々の苦労や努力、伝統的な食文化を理解することにより豊かな心を育て、笑顔が広がるまちづくりを目指すとしています。

基本理念の実現に向けて、また、第３次計画の評価や現状から見えてきた課題を踏まえて三つの基本目標を設定しました。また、六つの基本施策を定め、本計画に盛り込んでおります。

札幌市では、札幌市の最上位計画の第２次札幌市まちづくり戦略ビジョンを作成し、将来を見据え、誰もが安心して暮らし、生涯現役として輝き続けるまちの実現を目指しています。まちづくり戦略ビジョンでは、まちづくり重要概念の一つとしてウェルネスを掲げ、誰もが生涯健康で学び、自分らしく活躍できる社会の実現に向けた様々な具体的な事業を実施していくこととしています。

政策的な課題への対応をより一層強化し、第２次札幌市まちづくり戦略ビジョンを進めるために、令和６年度に保健福祉局にウェルネス推進部を新たに設置しました。これまで保健所が担っていた事業のうち、健康寿命延伸などの健康づくり部門や医療提供体制の構築、多死社会到来に向けた環境整備などの事業をウェルネス推進部が実施することになり

ました。また、妊産婦、子育て世代への支援を強化するため、母子保健係を保健所から子ども未来局に移管しました。

冒頭のご挨拶にもありましたが、ウェルネス推進部では、今後の市民の健康づくりの推進に向け、「ウェルネス何スル？」を合言葉に新たな一步を踏み出したところです。

「何スル？」の健康行動として、食生活は「タベル」、運動を示す「ウゴク」、健康診断や血圧・体重測定などを「ハカル」、睡眠や休養は「トトノエル」と表し、四つの要素を挙げています。

中でも、健康寿命の延伸のためには食べることは全ての人に欠かせないものであり、より健康的な「タベル」として、市民の皆様実践していただくための取組が必要となっています。

それでは、食育推進計画の基本目標1の生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進として、また、健康的な「タベル」を市民に周知するものとして、朝食の摂取を促す令和6年度の取組についてご紹介します。

こちらは、令和4年度に行いました札幌市健康・栄養調査の結果です。

朝食を毎日食べないと答えた人の割合は、特に20歳から30歳代で多くなっております。

このような現状を踏まえ、毎年6月の国が定めた食育月間では、健康寿命の延伸や生活習慣病の予防、健康の維持増進を目標とした食生活の実践取組の一つとして朝食摂取の重要性について啓発を行いました。その一環として、お手元の資料5の「朝ごはんにもたんぱく質！」を広告事業で作成し、各区の保健センターで配布したほか、公式ホームページに掲載し、学校や保育園を通じて周知を行いました。

続いて、野菜摂取量の増加を図る取組についてご紹介します。

こちら令和4年札幌市健康・栄養調査の結果です。

20歳以上の札幌市民の1日の野菜摂取量の平均値は284グラムでした。年齢階級別では、男女ともに40歳代が最も少なくなっています。

こちら同じ調査の結果ですが、野菜摂取目標量350グラムに対する摂取比率の分布でして、野菜摂取量が175グラム未満の割合は若い世代に多く、20歳から39歳で41.6%となっております。

この調査により、1日に野菜を食べる回数が多いほど、350グラムの野菜をとれている傾向があることが分かりました。そこで、「1日3回ベジだべさ！」のキャッチフレーズを作成し、野菜摂取目標量を達成できるよう、啓発に取り組むことといたしました。

こちらは、デジタルサイネージやポスターとして広報に活用しているほか、企業や関係団体等にも活用していただけるよう、公式ホームページで公開しております。

また、1983年に、全国青果物商業協同組合連合会など、九つの関係団が8月31日を野菜の日に制定したこと、8月は北海道でも収穫時期に当たり、地元産の野菜が豊富なことなどから、札幌市では2004年に8月を野菜摂取強化月間と定め、この期間に特に

力を入れて啓発しています。

月間に合わせ、お手元に資料6として配付しております「減塩でおいしい野菜レシピ」のリーフレットを作成し、各区の保健センターや市内の野菜販売店等で配布しております。

こちらは、野菜摂取強化月間の1日3回野菜を摂取することに関する周知について、大型スーパーにもご協力をいただいているということで、写真はアークス北24条店のお惣菜コーナーの様子です。啓発チラシの掲示の状況、野菜を多く取り入れた弁当など、月間に合わせて商品が並べられておりました。

こちらは、ファミリーマートの国際ビル店の様子です。POPによる啓発ということで、ちょっと小さくて分かりづらいかもしれないのですが、8月は野菜摂取強化月間ですという文言を取り入れ、商品レーンのものつり下げタイプのものを用いた啓発を行っております。

食育推進体制の整備のため、このほか、企業等との連携も進めております。

こちらは、札幌市と大塚製菓が協力して発行している低栄養予防の資料です。

大塚製菓を通じて、サツドラ、サンドラッグでも活用をいただいているほか、今後は配布先を拡充していく予定でおります。

こちらは、昨年度の会議でも紹介させていただきました自分の野菜摂取目標量や摂取量の過不足を知り、食生活に野菜を取り入れることが習慣となるよう、推定野菜摂取量測定器を活用した取組ですが、イオン北海道やアークスに協力していただいたウェルネスイベントを開催し、多くの市民の方に測定してもらい、反響をいただいております。

写真は、イオンモール札幌発寒店で7月に開催したときのものです。その際、食品関連企業にも啓発品の提供等でイベントにご協力をいただきました。

株式会社明治と札幌市老人クラブ連合会と札幌市が連携した低栄養予防のためのセミナーは、今年度、24回の実施を予定しております。このほか、11月には、森永乳業北海道と連携し、「腸からはじめる認知機能維持」をテーマとしたセミナーの開催を予定しております。

今回は、ウェルネス推進部の取組を中心に、食育推進基本目標の1の生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進と基本目標3の食育推進体制の整備に係る取組についてご報告をさせていただきました。

人生100年時代に向けて、市民が健やかで心豊かに生活できる活力ある社会の実現のため、地域や関係機関や団体、企業等との連携協働を図り、心身の健康を支える食環境の整備をし、無関心層を含めた効果的な食育を推進することが大切となっております。

前回の会議でもお願いさせていただいておりますが、委員の皆様の所属先でのお取組により、今後も食の大切さを伝えていただくことが計画推進に向けた大きな取組の一つとなります。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

○菊地会長 ただいま、第4次札幌市食育推進計画に基づく令和6年度の食育事業について説明がありました。

それでは、欠席された委員からの報告について事務局からお願いいたします。

○事務局（佐々木食育・健康管理担当係長） 札幌市調理師団体連合会の大江委員よりご報告をいただいておりますので、代読させていただきます。

当連合会では、毎年、各区の保健センター及び札幌市中央卸売市場様からの市民対象の料理教室講師依頼に応じ、日本料理、西洋料理、中華料理、すし、そば、麺等の講師を派遣しております。

令和5年度におきましては、白石区、厚別区、南区、清田区、豊平区、西区、北区、手稲区等、10回以上実施したところです。

また、市民の食生活改善を目的とした第30回地産地消・健康料理フェスティバルを8月にさっぽろ川甚本店にて開催し、120名の皆様に日本料理を提供いたしました。

2月には、日本料理、札幌第一割烹調理師会の佐藤登氏と札幌市の栄養士との料理テキストをテーマとした誌上料理教室の冊子1, 500部を発行いたしました。

令和6年度におきましても札幌市の食文化推進に努めてまいりたく、ご報告を申し上げます。

以上ですが、冒頭にもご紹介させていただきましたが、誌上料理教室の「札幌市第一割烹調理師会の佐藤登さんに教わる今日の朝ご飯」を委員の皆様のお手元に配付させていただいております。

○菊地会長 委員の皆様からご質問やご意見等はございませんでしょうか。

では、お考えの間に欠席された委員からの意見等について事務局からお願いいたします。

○事務局（佐々木食育・健康管理担当係長） それでは、札幌市食生活改善推進員協議会の飯岡委員からのご発言です。

このたびは、所用により欠席となりましたことをおわび申し上げます。

令和5年度食育事業報告を拝見させていただき、目標値を達成している項目が多く、関係課の皆様の努力の結果と伺いました。謝意を申し上げます。また、このたびは、事例紹介もたくさんあり、今後の食育事業の参考になるものと確信いたしました。

今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

続きまして、公益社団法人全国調理師養成施設協会北海道地区協議会代表幹事の佐々木委員からでございます。

令和6年度第1回札幌市食育推進会議の資料をお送りいただき、ありがとうございます。

全てに目を通しました。それぞれの取組が札幌市の食育の推進に寄与していることをうれしく思いました。

特に意見等はございません。皆様によりしくお伝えいただければ幸いです。

○菊地会長 ありがとうございます。

それでは、議題（2）のイの部会の立ち上げに移ります。

部会の設置について事務局から説明をお願いします。

○事務局（佐々木食育・健康管理担当係長） 昨年度の第3回の会議でご連絡していただきました部会の設置についてご説明をさせていただきます。

お手元の資料7のさっぽろウェルネス（タベル）健康対策検討部会の設置についてをご覧ください。

1の部会設置の背景です。

先ほどもお示ししたとおりで、また、スライドでも投映させていただいておりますけれども、令和4年札幌市健康・栄養調査の結果、20歳以上における1日の野菜摂取量の平均値は284.2グラムとなっています。また、朝食の欠食と併せ、食生活に課題を抱えている人は、特に若い働く世代に多く見られ、その課題の解決は健康寿命延伸のためにも重要となっています。

令和5年度の推定野菜摂取量測定器の調査では野菜不足という実感がないと回答した人が多くなっており、同じく令和5年度にウェルネス推進課が行ったウェブ調査では食生活の情報は食品スーパーから入手するとの回答が最も多くなっていました。

令和6年度に設置したウェルネス推進部では、今後の市民の健康づくりの推進に向け、「ウェルネス何スル？」を合言葉に新たな一歩を踏み出したところで、「何スル？」の健康行動として先ほどご紹介させていただいた四つの要素を挙げております。健康寿命延伸のためには、その要素の中の「タベル」ことは欠かせず、より健康的な「タベル」として、市民の皆様実践していただくための取組が必要となっております。

そこで、このたび、2の設置目的にありますとおり、第4次札幌市食育推進計画及び札幌ウェルネスプロジェクトの食生活分野について、企業、団体、大学等と連携した取組の充実強化に向けた検討をすることになりました。市民の野菜摂取不足が食生活の大きな課題となっていることから、今年度はこれに対する対策の検討を重点テーマといたします。

また、成人1日野菜摂取350グラム以上の目標値達成に向け、特に若い働く世代を中心とした市民への周知をはじめ、野菜やその関連商品、中食、惣菜、弁当等の販売や普及啓発を行い、市民が自然と健康的な食事を選べるような食環境整備の推進を図ってまいります。

3の設置根拠にありますとおり、札幌市食育推進会議条例第9条に基づき、食育推進会議に部会を設置することとします。

4の検討内容は、市民の野菜摂取量の増加対策、PR方法等の検討とします。

5の開催時期は、令和6年9月頃からで、2回程度の開催を予定しております。

6の構成員については、本会議を代表しまして、菊地会長をお願いしております。また、部会に所属すべき委員及び臨時委員は会長が指名することになっており、公衆衛生の専門家として小樽商科大学保健管理センター長、企業等、また、一般市民を代表しまして、これまでの会議のご発言内容等を勘案し、札幌市食生活改善推進員協議会の飯岡委員、そして、市民委員の松本委員をお願いしておりますので、ご承知おきください。

○菊地会長 部会については、特に若い働く世代を中心とした市民への周知について検討

していくこととなっております。

せっかくの機会でございますので、皆様からご意見や現状についてお話をいただきたいというふうに思います。

子どもの保護者、働く世代に関して、水岡委員は児童の保護者、働く世代との接点も多いと思いますが、この世代の食生活の現状について考えていらっしゃるなどがございましたらご発言をお願いいたします。

○水岡委員 私立保育連盟として食育に関しては調査を行っておりません。しかし、今お話を聞き、アンケートを全市的に行ってみるのも一つなのかなと思いました。

今、調査研究部というところでいろいろな調査をしているのですが、そういう中で、前年度は、デイサービスとして、児童の発達の支援について調査をしました。今お話を聞きますと、保護者がどれだけ本当に朝食をきちんと食べているかということですよね。でも、若いお母さんが多く、コーヒー1杯など、自分が食べないという人も結構多いのです。そして、朝早く来るときに車の中でパンを食べながら通園というお子さんがすごく多いのかなと思っています。

職員も子育て中の保育士が多いものですから、野菜等については気をつけているとは言っていますが、350グラムの摂取量を取っているのかなとちょっと疑問に思うところもあります。

また、子どもたちの実態ですが、ピーマンなどは苦いということで緑の野菜はやっぱり苦手ですね。入園の面接に来るときに好き嫌いがありますか、家庭での食事はどうですかとお聞きするのですが、大抵のお子さんは野菜が苦手ですとお話ししますし、園に来て少しずつ食べられるようになって、保育園で食べられているからいいかというようなところもあるようです。保育園では食べられるけれども、お家では食べない、食べないから出さない、出しても食べないからという保護者の方が多いかなと思っています。

保育園でも野菜月間があります。札幌市の献立を使っており、月間のポスターも掲示しております。また、人気の食品については、献立のレシピを印刷し、玄関に置きますと持って行ってくださるお母さんも多いですし、これがおいしかったということでお家でもつくってみますという方もいますので、そういう働きかけや啓蒙はすごく大事なかなと思っています。ですから、保育園にもこういう冊子をいただけたらいいのかなとすごく思っております。

先ほどの学生ではないですが、漫画から入るということもありますし、若いお母さんたちには見やすいレシピ等のリーフレットを保育園等でも配っていただけたら参考になるのかなと思いました。

○菊地会長 冊子配布の件、また、保護者に対するアンケートの件など、貴重なご意見をいただきました。参考にさせていただきたいと思います。

続きまして、消費者、市民のお立場から、この部会には食品メーカーや販売に関わる企業の委員が参加の予定ですが、永嶋委員より、消費者のお立場から、食品や健康に関する

情報の入手についてお感じになっていることがございましたらご発言をお願いいたします。
○永嶋委員 消費者の立場からということですが、ざっくばらんなお話をします。

今日配っていただいている野菜のレシピ、あるいは、漫画やイラストについては非常に見やすいですし、興味を引くかなと思いました。私は委員をさせていただいて、こういう場で見られるのですけれども、例えば町内会ではどうかです。私は平岸に住んでいるのですけれども、町内会の活動の場でもこういうものが配られれば非常に参考になるのではないかなという気がします。

また、こういう場で言うていいのかわからないのですけれども、例えば、野菜なんかをとる場合、冷凍物は駄目なのでしょうか。冷凍食品なんかを使いますと時短にもなりますよね。今の若い人はタイパと言っていますが、そういったことにもつながると思うのです。それに冷凍物の野菜が結構増えてきたなという感じもするので、例えば、そういったものを使った朝食レシピを紹介はできないのかなと感じました。

○菊地会長 先ほどの野菜レシピでも冷凍かぼちゃを取り入れられていましたが、事務局から冷凍野菜に関するコメントがありましたらお願いいたします。

○事務局（中澤食育・健康管理担当課長） 貴重なご意見をいただきまして、また、資料が非常に好評ということで、ありがとうございます。

今、デジタル化も進んでおりまして、紙媒体での配布をどのように行うとよいかが悩みどころです。ただ、皆様の目に届いていないということも事実ですので、どうしたら多くの方に伝えることができるかも含め、今後、検討してまいりたいと考えております。

また、ご質問をいただきました冷凍野菜についてです。

冷凍の野菜を使うことも一つと考えております。野菜には、ビタミンもそうですが、食物繊維も含まれています。冷凍以外にも乾燥のものもございますので、いろいろなものを活用して取り入れることが一番大切かなと考えています。それにはまずは3食食べることが必要ですので、意識していただけたらと思います。

○菊地会長 今度は、消費者、市民のお立場から、無関心層への働きかけが難しいのですが、河原委員、無関心層など、食品や健康に関する情報を知る機会についていかがでしょうか。

○河原委員 このパンフレットのやや下のほうですけれども、高齢者を対象にと書いてありますよね。でも、高齢者に限らず、「さあ、にぎやかにいただく」という冷蔵庫に貼れるようなマグネットタイプになっているものを見かけました。多分、これのことだと思うのですけれども、小さいお子さんが見て、とても喜ぶのだそうです。

いろいろな食べ物が載っていて、それも楽しいのかなと思いますが、大人がどれだけこの食材を取れたかなという視点で見ても楽しいし、面白いです。高齢者に限らず、子どもから大人まで楽しめます。これはとてもいいアイデアだなと思っておりますし、いろいろなパンフレットも出ていますけれども、どれもすばらしくできているなという感想です。

○菊地会長 貴重な機会でございますので、皆さんから何かご意見がございましたら願

いいいたします。

○當山委員 先ほどのスライドで1日の野菜摂取量350グラムを目標値としているとありましたが、80代男性が約350グラムを超えて400グラムに近い値と突出しておりましたが、その理由は把握されているのでしょうか。

もし分かれば、各年代の野菜摂取量を上げる参考になるのかなと思った次第です。

○事務局（中澤食育・健康管理担当課長） そこまで深追いしておりませんが、今後、アンケートの項目を増やし、その原因を探れるようにしてまいりたいと考えております。

○河原委員 野菜測定器で数値がよかった方にお聞きした話があります。どうしてそんなに野菜を多く取れているのかと聞きますと、毎日、冷蔵庫にあるいろいろな野菜を何種類もみそ汁に入れていたということでした。参考になればと思います。

○菊地会長 そのほかにご意見がございましたら、お願いいたします。では、農業者のお立場から、軽部委員、お願いいたします。

○軽部委員 私はJAさっぽろの組織の者ですが、食育推進計画をはじめ、いろいろな計画が立てられておりますけれども、農業関連で言いますと、札幌市の農業も重要な位置づけとされております。そこで、我々の各支店サイドでは、各地域の住民の皆様、子どもたちの皆様との食育推進に関するいろいろな計画より年間事業を組んでおります。

食の大切さをどう伝えるかは我々の大きな使命でもあるのですが、次の世代となる若い世代や小さな子どもたちに食の大切さをきちんと伝えるということは非常に大切なことだと思っております。そこで、種まきから収穫まで、子どもたちにいろいろな体験をさせると、ああ、本当に食べるもの、農業は大事なのだなと思っております。こういう事業に我々もどんどん取り組んでいきたいですし、我々の組織を皆さんにもっと利用していただければありがたいと思いますので、その点を含め、皆さんのご協力をよろしく願います。

○菊地会長 どうもありがとうございました。

それでは、今回、皆様からご発言をいただいた情報は部会での検討の参考とさせていただきます。

それでは、議題（2）のウの事例紹介に移ります。区が行っている取組事例を紹介していただきたいと思っております。白石区保健福祉部健康・子ども課からお願いいたします。

○白石区（工藤管理栄養士） このたびは白石区を取組を発表させていただく機会をいただきました。ありがとうございます。白石区からの資料として3種類をご用意させていただきました。令和5年度食育アンケートの結果というカラーのものが2種類としろいし食育通信というB5判のパンフレットの3種類になります。

本日は、食育に関するネットワークを活用した取組を中心に、令和5年度の実施の事例と令和6年度の実施予定内容についてご紹介をさせていただきます。

まず、白石区食育推進ネットワークの経緯についてですが、白石区食育推進ネットワークは、札幌市食育推進計画を推進するため、家庭や地域、食育に取り組む機関、団体がネ

ネットワークをつくり連携協力することにより、区の特徴を生かした食育を進めるために平成24年度に設置しております。

令和6年度現在の構成団体はお示しのとおりで、9団体と保健センターとなっております。

会議は年2回開催しまして、ネットワーク事業の内容の検討や各団体での食育の実施状況等を交流しております。

食育ネットワークの考え方です。これまで白石区ではネットワーク構成団体での活動を行ってまいりましたが、昨年度、全市的な方向性として、構成団体や会議等にこだわらず、事業に協力をいただける企業や関係団体等との連携を図り、第4次計画を進めていくことを確認しましたので、今年度からはこの考え方も踏まえて進めております。

それでは、白石区のネットワークを活用した食育の実践事例をご紹介します。

一つ目は、白石区食育アンケートです。朝食摂取、野菜摂取の現状を把握し、全市、全国との比較、経年変化を見ることで、今後の白石区における食育活動に活用することを目的に、区内の小学校6年生及び中学3年生を対象とし、アンケート調査を行っております。

こちらは、白石区小・中学校長会と栄養教諭・栄養士白石ブロックのご協力をいただきまして、平成25年度から経年で実施をしております。

昨年度の実施状況としましては、小学校6年生、全20校、1,253人、中学3年生、全8校、1,154人から回答をいただきました。

調査項目は朝食の摂取状況と内容、また、野菜の摂取状況、野菜摂取目標量350グラムの認知度の3点です。調査時期は9月から11月。以上の概要で実施をしました。

アンケート結果は報告書にまとめまして、各学校に送付するほか、食育ネットワーク会議で報告するとともに、関係部署で共有し、地域分析にも活用をしております。

令和5年度の結果の概要です。

朝食摂取率は調査開始時から減少傾向が見られています。全市の傾向については先ほどご報告もありましたけれども、白石区は、例年、全国、全市と比較して摂取率が低いという特徴がございまして、区の課題として認識をしております。

また、野菜摂取目標量の認知度は小・中学生ともに上昇しました。

そして、栄養教諭の配置校のほうが認知度は高く、さらに、朝食や野菜の摂取状況がよいの方が野菜摂取目標量の認知度が高かったです。

中学校においては、朝食摂取率、野菜摂取率ともに、区全体より高い傾向の地区、反対に低い傾向の地区があり、地域差がみられました。

野菜摂取目標量の認知度の上昇の背景としましては、これまでのアンケート結果を踏まえ、栄養教諭・栄養士ブロックの皆様が野菜摂取の啓発を重点項目として各学校での食育に取り組んでくださったということが挙げられます。

先ほどお伝えしましたように、野菜摂取の目標量の認知度は、朝食摂取率や野菜摂取率との関連性があるということが分かっておりますので、今後、関連してこれらの摂取率の

上昇にもつながることを期待しております。

結果については、報告書のほかに、お手元にお配りしました資料のとおり、調査対象の家庭向けにもかみ砕いた表現で結果をまとめた資料を作成し、配付しております。特に、児童生徒に伝えたい内容については漫画を用いて啓発する内容になっております。

昨年度、ネットワーク会議でこの結果を報告しましたところ、構成員の皆様が深く考えてくださりまして、小・中学校で引き続き啓発するほか、私立保育連盟の委員からは、朝食摂取について、小学校に進学する前の世帯への啓発も重要というお話がありました。また、そのための媒体を作成していただきたいと希望する意見もありました。これを受けまして、課内で検討し、令和6年度はお示しの朝食摂取の啓発ポスターを作成したところでございます。ネットワーク会議構成員の保育園の園長を通し、区内の36園にデータで共有しまして、各園の玄関や保育室などに掲示するなど、工夫して啓発をしていただいていると伺っております。

また、あらゆる人や家庭環境での実践につなげるためには、市販食品や外食の活用、そして、児童生徒自身が選択、調理に役立つ情報の提供も含めた啓発が重要であると考えまして、今年度、新たに、ネットワーク団体ではありませんが、白石区と包括連携協定を結んでいるファミリーマート様のご協力をいただくことができまして、野菜摂取の啓発ポスターを作成し、8月に区内ファミリーマート各店舗に掲示をいただいているところです。また、先ほどお話のあった啓発POPについても併せて陳列棚に配架していただいております。

食育アンケートは今年度も9月から10月の実施に向けて各学校に協力を依頼しているところです。これまでの取組の事業評価として、啓発の成果がアンケート結果として表れればと考えております。

続きまして、しろっぴーの食育ひろばについてご報告いたします。

白石区では、ネットワーク構成団体に関わる事業をしろっぴー（白石区のマスコットキャラクター）の食育ひろばという冠をつけて実施しております。

本日は、お示ししている五つの事業についてご紹介をさせていただきます。

クッキングライブは、市民が不足しがちな野菜の摂取量を増やすよう促し、薄味でもおいしい栄養バランスの取れた食生活の実践につなげることを目的としまして、白石区食生活改善推進員協議会の協力を得て実施しております。

講師は区の栄養士や料理研究家などが担いまして、提供されたレシピを基に、食生活改善推進員が調理し、区民に提供します。参加者の方々は、講話を聞くだけではなく、試食することによって実際に薄味でもおいしい野菜料理を味わうという体験をしながら食について学んでいただいています。

昨年度に実施した際には、参加者の方から、下ごしらえや調味料の合わせ方などがとても勉強になった、今回学んだことは友人にも教えてあげたいと笑顔で話されておりました。

今年度は、料理研究家のHERB&COOKING KINAの代表の大澄かほるさん

を講師に、明後日の8月29日に実施予定となっております。

続いて、食育講演会は、昨年度、「分かりやすい食育で子どもの才能を伸ばしてみませんか?」と題し、ネットワークの構成団体とのつながりから、ヌキタ・ロフィスドの代表であり、フードディレクターの貫田桂一氏を講師に招きまして、実施いたしました。区内の食育に関わる方や区民に参加をいただきました。

子どもが元気に育つ食べ物と食べ方について、地産地消からかむことの大切さまで、幅広く、実例を交えて楽しくご講演をいただいたところです。

夏休み親子料理教室につきましては、区内の小学生の親子を対象に例年実施しております。大変人気の教室で、毎年、多数の申込みをいただく事業となっております。

白石区食生活改善推進員協議会主催の事業ではありますが、ネットワークの構成団体である栄養教諭・栄養士白石ブロックのご協力もいただいております。

今年度は7月31日に実施をしました。学校の栄養士から札幌でとれる野菜についての講話と食生活改善推進員による調理デモンストレーションの後、スタッフの補助をいただきながら和やかに進めることができました。親子での調理が楽しく、家でもぜひやってみたい、野菜をたくさん取ろうと思ったなどの声が多く聞かれまして、家庭での食育実践や野菜摂取の啓発効果があったと考えております。

はじめてのおせち料理教室は、区の栄養士から伝統料理と和食、おせち料理でも、主食、主菜、副菜をそろえることについて説明しました後、食生活改善推進員が講師となり、身近な材料で簡単につくることができるおせちの調理実習を行います。試食中には、簡単なのにおいしいね、家でもう一度つくってみるなどの会話が笑顔で交わされ、伝統的な料理の食文化の継承の啓発につながっていると考えます。今年度も12月13日に実施する予定で動いております。

続いて、しろいし食育通信です。お手元に資料としてお配りをしております。

1年間の食育ネットワーク事業をまとめ、年1回発行をさせていただいております。初めに紹介しました食育アンケートにご協力をいただいた小・中学校のほか、ネットワーク団体、各種教室やパネル展などで配布しまして、白石区の取組について啓発をしており、今年度で17回目の発行となります。

最後に、その他関係団体と協力して行っている事業を2点ほどご紹介いたします。

左側は、リーフレットの「これから料理を始めるみなさんへ」です。覚えておきたい料理の基本、5分で作れる朝ご飯、ほぼ100円以下の野菜料理のレシピなどを掲載しております。区内の三つの高等学校に協力を依頼しまして、翌年春から生活状況の変化が多いと思われる高校3年生に配布させていただいております。あわせて、朝食摂取や野菜摂取についてのウェブアンケートも依頼してございまして、今年度も実施予定です。

右側は、高齢者対象のリーフレットの「もしもに備えるお手軽レシピ シニア世代にやさしいふだんのごはん」です。高齢者世帯における食品備蓄に関する知識の普及と併せ、備蓄品を活用した簡単レシピを紹介することにより、非常時だけでなく、平常時と

ますか、ふだんから食事の支度に対する負担感を軽減していただくことで低栄養予防に寄与することを目的に作成しております。

高齢者対象の健康教室などで配布させていただいているほか、地域包括支援センターや介護予防センターなどにもご紹介をさせていただきました。個別に問合せもあり、在庫が少ないため、希望数の配布ができなかったということもありますが、よい評価をいただいていると考えております。

今年度の内容については検討中ですが、高齢者対象のリーフレットを発行する予定で計画しております。以上で白石区からの報告を終わらせていただきます。

今後も、第4次食育推進計画の推進のために、区の特徴を踏まえた取組を検討して進めてまいりたいと思っております。ご清聴いただきありがとうございました。

○菊地会長 委員の皆様から何かご質問やご意見等はございませんか。

○水岡委員 とてもいい取組だなと思ったのですが、これは白石区のみを取組なのですか。私は豊平区に住んでいるのですが、食育のネットワークがなく、先ほどの朝食のものもそうですが、こういう取組を他区でもやられているのかどうかをお聞きします。

○白石区（工藤管理栄養士） ネットワークを活用した取組については札幌市内全区で行われておりますが、最初にお話ししたとおり、区の特徴を踏まえた取組となりますので、活動の細かい内容については各区で異なるかなと思います。

○水岡委員 できれば、このような取組を全区でやっていただければと思います。

先ほどアンケートのことをお話ししましたが、こういう区ごとの取組の中で保育園や幼稚園の食事がどうなっているのかのデータを取り、全市に持っていくほうが信憑性も出てきますし、私たちにとってもすごく参考になりますし、市と一緒にそういう取組ができればいいかなと思いました。

今回の白石区を取組はとてもいい取組なので、ぜひ全区でやっていただきたいですね。また、小学校だけではなく、保育園や幼稚園にもアンケートをしていただき、取りまとめをしていただけたらうれしく思いますので、よろしく願いいたします。

○菊地会長 続きまして、手稲区保健福祉部健康・子ども課からお願いいたします。

○手稲区（小林主査） それでは、手稲区を取組をご報告させていただきます。

お手元の資料で、資料10の「ていぬと一緒に！朝食レコーディング」と資料11の朝食レコーディングの記録シートを配らせていただいておりますので、ご覧いただきたいと思います。

今年で3年目を迎えます当該事業についてご報告をさせていただきます。

事業概要ですが、この事業は区役所の中では朝レコという愛称で呼ばれているものですが、対象は手稲区内の小学生です。内容は至ってシンプルで、参加の小学生は夏休みの期間中に朝食を食べることについて目標を立てます。例えば、おかずも食べる、牛乳を毎日飲む、今年はおもたさないで食べるなんていうかわいらしい目標を立ててくれている小学生もおりました。

自分で決めたそれぞれの目標に対し、お手元にお配りしましたシートにできたかどうかをチェックします。そして、そのシートを保健センターに提出してもらおうと、手稲区のマスコットキャラクターていぬの限定グッズと賞状がもらえます。

当該事業の狙いですけれども、一つ目は、小学生が朝食摂取に関心を持ち、継続的な摂取意欲につなげるということです。先ほど、ご紹介がありました第4次札幌市食育推進計画の指標の一つに、朝食を欠食する子ども、小学6年生の割合をゼロにするという項目がございました。昨年度の当該事業の参加者は181人おりましたが、そのうち、17%に当たる31人が毎日は朝食を食べていないと答えておりました。単純比較はできないですけれども、札幌市の小学校6年生が7.1%でございましたので、決して低い数字ではありませんでした。しかし、そのうちの29人、94%がこの取組を通して毎日食べようと思うと答えておりました。また、参加者全体では79%がこの取組を通してこれからも毎日食べようと思ったと答えております。

狙いの二つ目は、参加の小学生を通し、若い働く世代となりますが、保護者世代へも朝食の啓発を通して家庭での習慣的な朝食摂取につなげる機会にするということです。

小学生世代では1人で朝食の準備をして食べるという子どもはまだ少ないと思います。また、当該事業は任意ですけれども、シートに保護者からの意見や感想を書く欄を設けております。加えて、賞品をもらいに來るため保健センターに來ることになっていますが、随所に保護者が関わるような仕組みとしました。

昨年度ですが、個人で申し込まれた保護者からの意見・感想欄に約7割の方から記載がございまして、保護者の関わりもうかがうことができました。その内容として、朝食の大切さを再認識しました、この事業をきっかけに食べることに興味を持って卵料理などを子どもが自ら作るようになってくれたのですというような好意的なものでした。

さらに、狙いの三つ目は、今年度から新たに加えたものですが、広報やウェルネスパートナー企業等との連携を活用して広く周知することで朝食摂取の重要性について区内に機運を醸成するというものです。今年度は、ウェルネスパートナー企業であります大塚製薬株式会社様にご協力をいただき、スーパーやドラッグストアなどにも周知を広げたところです。

そのほか、例年、ポスターや記録シートを学校や児童会館で目にするということはもちろん、この後にご説明しますが、プールや体育館、図書館など、そのほか、スーパーやドラッグストアにもあるということで、区民の皆様としては、学校だけではなく、あちこちで朝食のことを目にするということで、大事なものののだという認識を持っていただければと考えております。

続きまして、当該事業の事業協力体制についてです。広報、周知に力を入れました今年度は、新たに青色の字でお示ししました各団体や企業の協力を得ることができております。

初めに、左上からですが、手稲区にも食育に関わるネットワークがございまして、区内の主に子どもや若い世代の食育事業の際に連携した事業を行っております。食生活改善推

進員協議会や手稲区栄養教諭・栄養士ブロック等がごございます。今年度は、保育園や幼稚園などにもご協力をいただきました。小学生のごきょうだいがいらっしゃる方も多いと思いますので、一緒に取り組むことができるだろうということからです。

また、施設関係では、児童会館のほか、夏休みに子どもたちの利用が増えます図書館や曙にあります温水プール、また、手稲区にはていねプールという屋外プールもごございますので、そちらにもご協力をいただいております。図書館では期間内に100枚以上のシートの配布をいただいております。

なお、一番大きかったのが企業様のご協力、大塚製薬様のご協力をいただきまして、大塚製薬様の商品を置いている区内の量販店やドラッグストアなど、7店舗でご協力を得ることができております。

周知方法をもう少し詳しくご説明させていただきます。

今までも、広報さっぽろ、フリーペーパーのふりっば一への掲載、手稲区の栄養教諭・栄養士ブロックの協力を得まして、区内の児童全員に配付しているていね食育ネットワーク通信に当該事業について掲載していただきました。

また、手稲区の校長会の会議でご説明させていただきましたところ、学校全体での取組を行いたいとご要望をいただき、ご連絡のあった学校、また、民生委員児童委員の会議でご説明させていただいた際には予想以上にたくさんのご質問をいただきまして、皆様の関心の高さを実感したところでございます。

また、町内会には特にこちらからの周知はしなかったのですが、この取組を知っていただきました町内会長が、子どもたちが集まるラジオ体操の際に配りたい、そして、地域の健康づくり事業としまして、地域の夏祭りでもぜひ配りたいとご要望をいただきまして、保健センターにわざわざいらしていただきました。さらに、夏休み初日に北海道新聞に掲載されたこともありまして、切り抜きを手にシートを取りに来た小学生もいらっしゃいました。

この事業のことだけを考えますと、学校を通して対象者全員にシートを配るという方法もあるのですが、この事業を通して食育を市民運動にするという視点から多くの方たちのご協力を得て連携して周知でき、手応えを感じているところでございます。

子どもたちの参加方法です。繰り返しになりますが、小学生にはいろいろなところでシートを配布しています。また、保健センターのホームページにもこのシートのデータを掲載しましたので、それを印刷するなどして入手し、自分で目標を立て、期間を決めて、それぞれの目標が達成できたかどうかを記録し、シートを保健センターに提出してもらいます。写真にありますように、子どもたちが目標を達成された際には、ファイルやシールなどの賞品を受け取ることができます。

ここで手稲区のマスコットキャラクターていぬをご紹介します。

皆様、ていぬをご存じでしょうか。区のキャラクターとしましては一番の古株で、平成元年に手稲山で発見されたという設定です。好きな食べ物は手稲区特産の大浜みやこぼ

ちやとサッポロスイカで、まさに、今、旬を迎えております。

また、顔が何となく似ているということからクリームパンが好きだというようなプロフィールもありまして、食育のためにできたキャラクターのようではありますが、年齢は二十歳を超えているようで、お酒もいける口となっております。

「何々するです」といったような独特のていぬ語を話します。

また、手稲区内を歩きますと、横断歩道のストップマークや飲食店の看板にもていぬがありまして、区内を歩くとていぬに会わない日はないぐらい、いろいろなところで目で見えます。高校生なども自転車にていぬのシールを貼っているなど、区民にとっても愛されているキャラクターだと感じています。

こうしたことも含め、ていぬを活用したことがこの事業の良いところと思っておりますが、区民にとっても愛されているていぬが記録シートの中で応援してくれるというつくりになりました。お手元の記録シートをいま一度ご覧いただきたいと思うのですが、無関心層を事業に取り込むことはいろいろな場合で難しさを感じますけれども、この事業ではていぬがその一翼を担ってくれていると感じております。

昨年の参加者のアンケートの中でていぬが応援してくれるから参加した、ていぬが応援してくれるから続けられたよというような声も聞かれております。ていぬがきっかけとなって参加してくれているということで、子どもたちのモチベーションになっているということも感じています。

参考までに、昨年に提出されたシートを紹介します。

目標記載欄がちょっと小さかったかなと思うぐらい大きな字で目標を書いてくれています。また、チェック欄にはかわいらしいイラストやシールを貼ってくれていまして、子どもたちの頑張りが伝わってきますし、思わず頬が緩んでしまうところです。

最後に、当該事業の評価についてお話しします。

1点目は、この事業にどのぐらいのお子さんたちが参加してくれたかです。

事業参加のハードルをいかに下げ、多くの子どもたちに参加してもらうか、どのぐらいの子どもたちが参加してくれるかを評価の一つにしております。

2点目は、事業の狙いとするところが達成できたか、アンケートにより、朝食継続意欲や保護者の記載欄の評価を行います。

3点目は、朝食の機運の醸成の目安として、どれだけたくさんの方たちがこの事業を通して食育仲間になってくれたかです。具体的には、連携協力してくださった企業や団体の数を評価の一つと考えたいと思っております。

当該事業を通しまして、行政だけの取組ではなく、朝食の取組が手稲区の食育の取組の一つになり、この事業をきっかけとして食育に関わる仲間が増えて市民運動になっていくことが理想だと考えております。今後、この事業については、たんぼぼの綿毛が飛んでいき、その先でたんぼぼ畑が広がっていくようなことをイメージしまして、手稲区内の食育の仲間を増やしていけたらと考えております。

以上、ご清聴いただきありがとうございました。

○菊地会長 委員の皆様から何かご質問やご意見等はございませんでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

5. その他

○菊地会長 それでは、その他に移ります。

事務局から連絡などはございますでしょうか。

○事務局(中澤食育・健康管理担当課長) 何点か連絡事項を説明させていただきます。

お手元の資料ですが、説明していない資料が二つございましたので、追加で説明を申し上げます。資料3の「もうこれで迷わない! 献立の立て方」についてです。

少し前になりますが、令和4年度の食育推進会議におきまして、保護者の方が献立の立て方がなかなか難しいというご意見をいただきましたので、このたび、各区の管理栄養士と一緒に献立の立て方に関する資料をつくりました。

こちらは、乳幼児健診や妊産婦教室など、様々な場面で使ってまいりたいと考えておりますし、ホームページでも掲載しております。こちらの会議のご意見を基に作成した資料ですので、ご報告をさせていただきます。

続きまして、資料4の令和5年度札幌市お弁当レシピコンテストについてです。

平成27年度から毎年行っておりますが、令和5年度の入賞作品をまとめております。現在、令和6年度札幌市お弁当レシピコンテストのレシピについて、中学校、高校にご協力をいただき、レシピを募集しているところでございます。小川委員にもご協力をいただいておりますが、ご周知につきましてどうぞよろしくお願いいたします。

昨年度は1,257作品をいただきました。今年度も同様に募集し、1月に表彰式を実施します。

なお、こちらの資料は、これからお弁当をつくる機会が多いであろう、持っていく機会が多いであろうと思われる中学校3年生の卒業時にお渡ししています。

次に、連絡事項が2点ございます。

1点目は、委員の交代についてです。この会議の委員の任期は2年としておりまして、令和7年7月31日までの委嘱状をお渡ししております。食育推進会議は札幌市の附属機関となっておりますので、この期間までにやむを得ず交代する場合がございますら、事務局までご連絡をお願いいたします。

2点目は、令和6年度の会議についてです。令和6年度は今回の会議で終了を予定しております。

なお、次年度の会議につきましては、委員交代の時期になっておりますが、委員交代が終わりました8月頃の開催を予定しております。

先の話ではございますが、よろしくお願いいたします。

○菊地会長 次回の会議は来年の8月頃とのことですが、7月で任期を終える委員もいら

っしゃいます。任期を終える委員の皆様は本当にご苦労さまでございました。そして、ありがとうございます。

それでは、本日の予定の議題を全て終了いたしました。

全体を通してご質問等はございませんでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○菊地会長 それでは、事務局にお返しいたします。

6. 閉 会

○事務局（秋野歯科保健担当部長） 菊地会長、円滑な議事進行をありがとうございました。皆様から本日いただきましたご意見を参考にさせていただきながら、食育関係団体、地域、学校関係、企業とも連携しまして、本計画、市民の食育の推進にしっかり取り組んでまいりたいと考えておりますので、委員の皆様、引き続きよろしく願いをいたします。

また、本会議の会議録ですが、後日に送付させていただきますので、ご確認のほどをよろしく願いいたします。

以上をもちまして令和6年度第1回札幌市食育推進会議を終了いたします。

皆様、本日は長時間にわたりまして、ありがとうございました。

以 上